

おいでませ山口キャンペーン 人生初めての一人旅ツアーズ

高校 1A 富岡優也

8月13日から8月19日まで、本州最西端の県、「山口県」に行った。

今までは家族や部活のメンバーとの旅行や、一人でも日帰り出来そうな旅だったが、高一になって自分ひとりで計画を立てて一人旅をしたいと思った。初めは家族（特に母親）から反対されていたが、それを押し通し今回の旅を行った。

山口に行きたかった動機はたまたま『山口観光キャンペーン』をやっていたこと、

SL やまぐち号や、もうすぐ廃止が検討されている寝台特急に乗ってみたかったからだ。

初日 8月13日 新橋 5:23→新大阪 17:00

新橋 05:23～（ 東海道線 普通 321M 静岡行き ）～函南 07:20

函南～（以後、東海道線 JR 東海区間 沼津・由比・清水・藤枝に下車）～浜松

浜松 11:28～（ 東海道線 普通 941M 豊橋行き ）～豊橋 12:01

豊橋～（東海道線 新快速 大垣行き）～大府～（普通 岐阜行き）～熱田

熱田にて、名古屋鉄道列車撮影会

熱田～（東海道線 普通 岐阜行き）～名古屋～（新快速 大垣行き）～大垣

大垣 14:40～（ 東海道線 普通 233F 米原行き ）～米原 15:17

米原 15:19～（東海道線 新快速 3483M 播州赤穂行き）～新大阪 17:00（遅延）

この日新大阪のホテルにて宿泊

この日から約一週間のたびが始まった。今回は青春 18 きっぷを使わずに周遊きっぷの行き券を使った。値段は東京～防府の正規値段の 30%引きだ。このきっぷを使って、青春 18 きっぷと同様に、「特急、新幹線を一切使わず、普通列車だけを乗り継いで移動しよう。」と思ったのである。そう考えた理由は、「18 きっぷ以外を使って青春 18 きっぷみたいなことをしたい」と思ったからだ。

始発の新橋駅、朝 5 時台というとても早い時間ではあるが、駅には人がすでに並んでいた。その理由は、東海道線の朝の始発列車は特急車両を使っているからだ。車両は 373 系という JR 東海所属の車両で、主に静岡～甲府を結ぶ特急『ワイドビューふじかわ』や東京～名古屋・大垣を夜に結ぶ快速『ムーンライトながら』に使われている。（東京 5:20 と静岡発 19:35 が該当）

車内は 18 きっぷシーズンに加え、お盆の時期となっているのでやっぱりというか混雑している。それでも、座れたのは幸運だっただろう。程なくして、『函南』（カンナミ）に到着。なぜ『函南』に降りたかという、（カンナミ）というに駅名が気に入っていたからだ。

その他にも、由比、清水、藤枝などの駅名の気に入った駅に降りたり、食料確保のために降りたりして熱田に着いた。

熱田に到着。ここでの目的は、併走している赤い私鉄「名古屋鉄道（豊橋～名鉄名古屋～名鉄岐阜など）」の車両の写真を撮影したかったからだ。お目当ては近いうちに引退が決まっている

名鉄の人気車両、7000形パノラマカーだった。が、なかなか来なかった。それでも名鉄の中でも好きな車両、1000形パノラマスーパーを撮ることができたので、これもよしとした。熱田でしばらく撮影した後、大垣に向かった。



名鉄 2200系熱田にて



名鉄 1000系熱田にて



JR 東海の苦悩がわかる。大垣にて

大垣駅に到着、ここで米原行きに乗り換えるがホームに「構内制限時速 10km」と書かれた看板がある。一見すれば電車に対して、と思われる方も多いと思うがこれは違う。「大垣駅を使う利用客」に対してのものだ。大垣駅は名古屋方面の列車と米原方面の列車の乗換駅となっており、またホームも離れている。そのため、一部のマナーの悪い客が多く、猛スピードで走っていて危険なのだ。

大垣～米原を越えたら後少し。米原から新快速で大阪まで直通で行くだけだ。米原からはJR西日本となり、西日本の車両が現れ始める。ここから新快速列車に乗って大阪へと目指す。車両は223系でアーバンネットワーク（JRの近畿圏の路線の愛称）を代表する車両で、車内は特急にも負けない転換クロスシートを備えている。また併走私鉄に勝つために評定速度が速くなっており、鉄研旅行でも何度かお世話になった。車窓はやがて何も無いような場所から次第にビルが建ち始め、京都につくころには車内は混んできた。ようやく大阪に到着。列車の撮影をしてこの日は早くホテルに入った。

二日目 8月14日（木） 大阪→岩国観光・山口入り

新大阪 7:59～（山陽新幹線 639A こだま 639号 博多行き）～広島 11:01

広島 12:05～（山陽本線 普通 1639M 南岩国行き）～岩国 12:54

岩国観光（錦帯橋・岩国城など）

岩国 16:10～（岩徳線 普通 2239D 徳山行き）～徳山 17:45

宿に宿泊

2日目の朝、ついにお目当ての『初代0系新幹線』に乗るときがきた。そのことでもう、頭がいっぱいになっていた。

0系新幹線は、1964年10月に東海道新幹線の開業に合わせて登場した。日本で初めての新幹線車両で、開業以来40年以上も走り続けていた。その後1999年に東海道新幹線（東京～新大阪）から引退、以後編成を短くして山陽新幹線（新大阪～博多）で少し残っているが、残念ながら今年の11月30日にて定期運用から引退する。定刻どおり発車。このまま広島まで、約3時間の旅が始まる。新幹線にはたくさん乗ったが、各駅停車で多くの列車に追い抜かれるというのは初めてだ。しかし『のぞみ』『ひかり』の通過待ちのときは列車の撮影ができるのでよしとした。他の客に鉄道好きはもちろん、家族連れもいた。またこの列車の車掌さんが0系のことを話してくれた。そればかりか、自分が広島へ降りるということを知っていたのだ。列車に多く乗ると車掌さんにも多く会うが、ここまでしてくれた車掌さんはなかなかいない。実に充実した列車旅になった。



広島に着き新幹線の撮影をした後、すぐに岩国へ向かう。車両は広島支社の115系。車体は旧型だが車内は新型同様の改装がされていた。1時間ほどで岩国に到着、ここでは錦帯橋や岩国城に行く。錦帯橋はパンフレットを見た時から行くことを決めていた場所で、「日本三名橋」に数えられる、アーチ状の美しい橋だ。



本日の鉄道旅の最後は、ローカル線のひとつ『岩徳線』（岩国～櫛ヶ浜）に乗る。この路線は昔は山陽本線と呼ばれていたのだが、複線化を機会に当時柳井線と呼ばれていた路線（現在の山陽線 岩国～柳井～徳山）に移り、その後は地方交通線として地域輸送に徹している。列車は急勾配と長いトンネルを通り、徳山へ着く。その後は山陽線の列車に乗り換えホテルホテルへと向かった。昨日、本日も強行スケジュールだったが、明日はいくらか楽だろう。



岩徳線 キハ47
岩国にて



徳山にて見つけた柳井名物
「金魚ちょうちん」

三日目 8月15日（金） 萩・山口観光

新山口駅 9:55～（防長交通バス はぎ号 東萩行き）～東萩 11:07

萩観光

東萩 13:30～（中国ジェイアールバス 防長線 山口駅前）～山口駅 14:30

山口観光

山口駅 17:04～（中国ジェイアールバス 防長線 防府駅前）～防府駅 17:45

この日は珍しく、鉄道は使わなかった。

この日は萩へ行こうと思い、新山口から出ているバスに乗った。萩と新山口は結構かかると思っていたが、実際そうでもなかった。萩は幕末の英雄、高杉晋作の生まれ故郷であり、松下村塾もあり明治維新の始まりの場所だった。私はあまり時間も無いので萩博物館しか行けなかったがそれでもよしとした。萩博物館内は撮影できそうではなかったので写真は無いが、幕末の歴史の動き、偉人の行動・考えがわかりとても興味をそそるものだった。東萩から山口ではバスを使う。バスは普通の路線バスタイプ、しかし思ったよりは疲れなかった。山口に到着した後は山口サビエル記念聖堂と、山口県立美術館に行った。山口サビエル記念聖堂はカトリックの宣教師、フランシスコ・ザビエルの山口での布教活動 400 周年を記念して建てられたもので、山口のシンボリック的存在になっている。また、山口県立美術館のこの日の展示内容は、「美が結ぶ絆」であり、世界に渡った日本画の展示だった。最後はまたバスに乗り、この日のたびは終わった。



幕末の博物館「萩博物館」



自然に溶け込む「山口サビエル記念聖堂」

四日目 8月16日(土) 長門市観光

新山口 8:23～(山陽新幹線 こだま 623号 博多行き)～新下関 8:51
 新下関 10:25～(山陰本線 8541D 快速みすゞ潮彩1号 仙崎行き)～仙崎 12:46
 長門市内観光
 長門市 15:11～(美祢線 732D 普通 厚狭行き)～美祢 15:47
 美祢 17:49～(美祢線 9752D 快速おいでませ山口号 厚狭行き)～厚狭 18:15
 厚狭 19:08～(山陽新幹線 こだま 722号 広島行き)～新山口 19:21

この日の山口は、曇りだった。まずは新下関で新幹線の撮影をした後、そこから快速みすゞ潮彩に乗り込む。みすゞ潮彩は下関(土休日は新下関)から山陰本線を通り、長門市へ行く観光列車だ。列車名の由来は、長門市出身の日本でも有名な童謡詩人、金子みすゞである。列車は日本海を通るので展望スペースも充実しており、また景色がいいところには列車を止めて、少しでも日本海の素晴らしい願望を見てもらおうとしているのだ。しかし、この日は曇り。あまりいい景色は見られなかった。列車を降りる時に乗車記念絵はがき、はまゆうの種子をもらえた。列車は程なくして長門市駅に到着、その後山陰本線の支線を通り仙崎へ。仙崎駅の駅舎は木造風のものだった。



キハ47 快速「みすゞ潮彩」
新下関にて



木造風の駅舎をもつ「仙崎」

仙崎駅で少し写真を撮った後、金子みすゞ記念館がある。そこは、彼女の生家をモチーフにした建物で、中は生涯に残した詩や、縁の写真がある。

そこでの見学の後、仙崎駅から長門市駅まで海沿いの道に沿って歩いた。15分はかかったのだが、のどかな海岸風景は疲れを忘れさせた。長門市駅から美祢線（厚狭～長門市）の列車に乗り込む。車両はJR西日本が開散ローカル専用キハ120だった。ここから美祢までいったところ降りる。美祢には用事はないが、時間があつたのでなんとなく降りてみた。



キハ120（美祢線タイプ）



駅前にあつた巨大アンモナイト



質素な感じのする「美祢駅」



秋吉台を思わせる

美祢市の周りをただ普通に歩いて2時間、厚狭行き臨時列車に乗り込む。この臨時快速に乗るのも今回の旅の小さな目的。かつて非電化区間の急行用列車として開発された、キハ58があるからだ。キハ58は古いもので製造後40年は経過しているものもあり、どんどん廃車が進んでいる。またJR西日本のキハ58は国鉄時代の原型エンジンを積んでいるので、個人的にも好きだ。車内は大して混んでいなかったため、ボックス4人分を占領して、沿線風景を楽しんだ。厚狭駅についた後、車内の乗客は列車を撮り始めた。よっぽど珍しいからだろう。その後、エンジン音を大きく上げて発車。キハ58がいつまでも残ってくれるのを少し願う。

帰りはもう遅くなったので厚狭～新山口間を新幹線に乗車。車両は100系新幹線だ。（といっても登場時の青い帯ではないのがざんねんだが・・・）明日も早起きするために早く眠る。



JR 西日本仕様の 100 系新幹線
厚狭にて



昔懐かしい気動車 キハ 58
厚狭にて

四日目 8月17日(日) 秋芳洞・津和野観光 SL乗車

新山口駅 9:10～ (防長交通バス 秋吉線 秋芳洞行き) ～秋芳洞 10:00

秋芳洞入洞

秋芳洞 11:39～ (防長交通バス 秋吉線 新山口駅行き) ～新山口駅 12:39

新山口 12:53～ (山口線 3004D 特急スーパーおき4号 米子行き) ～津和野 13:55

津和野観光

津和野 15:36～ (山口線 9522 快速 SLやまぐち号 新山口行き) ～新山口 17:30

この日は、行きたかった「秋芳洞」に行くことにした。秋芳洞は約3億年かけて形作られた日本を代表する三大鍾乳洞のひとつだ。ちなみにそのうちのもうひとつ、『龍泉洞』(岩手県岩泉市)にも行ったことがあるので、これで2つは制覇したことになる。

秋芳洞のあとはバスで新山口に戻り、「特急スーパーおき」に乗る。使用車両はJR西日本が山陰エリア用特急列車として開発した、キハ187系だ。気動車なのだが、電車並みの速度で走れることと、カーブで大きく揺れる振り子四季車両であることが特徴だ。車内は混雑していて、とてもじゃないが座れない。しょうがないのでデッキに座ることにした。津和野に到着、その後レンタル自転車を借りて観光を始めた。行きたかった場所は「森鷗外記念館と旧宅」だ。森鷗外の小説を読んだことがあるので、興味があり十分楽しめた。



山陰路の主役 キハ 187 系川湯温泉



津和野駅 駅舎

帰りに名物の源氏巻を買い、SLに乗り込む。SLはC56-160とC57-1のプッシュプルで後ろにマイテ49-2が連結された。『SLやまぐち号』は国鉄から蒸気機関車が消えて初めてのSL復活運転をした列車で、来年運転開始39周年を迎える。私が乗ったのは、新山口よりの1号車『展望車風客車』だ。その他にも、『昭和風』『明治風』『欧風』などがある。また「マイテ49-2」は戦前多くのの特急列車に連結されていた。当時は「普通車」などではなく、一等車・二等車で分けられた中での一等車だった。今のグリーン車は二等車なので、どれくらい価値があるかわかるだろう。程なくして出発、その後記念乗車券とくじが配られた。くじに当たりが出れば、記念品がもらえると聞きあけてみると結果は当たり、ピンバッチとチョコQがもらえた。SLの車窓には写真を撮っているファンや地元客が見受けられた。今回の旅の大目的の1つであり、SLに乗車できたことと車窓の景色にしばし考えにふけ、約2時間のSL旅が終わった。



SLやまぐち号牽引機関車「C57-1」
徳佐にて



もう一つの牽引機「C56-160」
山口にて



1号車の展望車風客車
新山口にて



一等車の品格がある「マイテ49-2」
山口にて

5～6日目 8月18～19日（月～火）関門エリア観光 初の寝台特急

新山口 8:44～（山陽本線 普通 531M 下関行き）～下関 9:50

下関・海峡エリア観光

下関 11:53～（山陽本線 普通 5543M 行橋行き）～門司 12:00

門司 12:03～（鹿児島本線 準快速 4334M 門司港行き）～門司港 12:10

九州鉄道記念館・門司港レトロ街観光

門司港 18:17～（鹿児島本線 快速 4347M 荒尾行き）～門司 18:23

門司 19:15～（東海道・山陽本線 2レ 寝台特急はやぶさ 東京行き）～東京 9:58

長かった山口遠征も、本日が最終日。この日は本州最西端の都市、下関と九州の玄関口だった門司港を観光する。いつも新幹線を使っていたので、今回は普通列車で移動する。普通列車として乗ったのは、115系。車内は223系と同じ転換クロスシートであったが、車内が混んでいたもので車端ロングに座る。

しばらくして下関に到着。旧英国領事館へ行く途中に、展望台があったのでそこに入った。下関の光景や海の向こう側の町、門司を見ることができた。その後唐戸に到着、そこは下関のレトロ街である。ここで思わぬものを見た。ロンドンバスだ。唐戸の風景とも合っていた。そして見学の後、昼に名物のふぐ天うどんを食べ、九州の門司へと行く。



旧英国領事館



下関のロンドンバス



展望台から見た九州

門司は周遊きっぷのゾーンから外れてしまうが、どうしても行きたかった。理由のひとつに「九州鉄道記念館」があるからだ。内容は九州関連ののだが相当充実していた。ここでも展望台に行った。海の向こう側の街、下関との距離も結構近いと思った。国の重要文化財に登録されている門司港駅舎の写真を撮る。関門の出入り口だった駅で、関門連絡線の名残も少しながら残っている。門司についた後、後は最後に乗る列車に乗り込むだけだった。それは旅の目的でもあった『寝台特急はやぶさ』乗車だ。



九州の鉄道博物館
『九州鉄道記念館』



街中を歩いて見つけた建物



門司から見た下関



レトロな駅舎『門司港駅』



九州の鉄道の基点「0キロポスト」



最後に乗る「寝台特急はやぶさ」

はやぶさ号は 1958 年 10 月に誕生し、当時は東京～鹿児島間の運転であった。しかし利用客の減少などで他の列車の廃止、運転されるものも編成が減らされ、運転区間も短くなり今では東京～門司間を『富士』（東京～大分）と併決して熊本まで行く東京から九州へいける唯一の夜行列車となってしまった。

私は安眠と荷物を守るため、『ソロ』を選んだ。『ソロ』は B 寝台の個室で、値段は普通の開放型と同じ 6300 円だ。ソロは比較的多くの寝台列車に連結されているので、機会があったら利用してみるのもいいだろう。この日の『富士・はやぶさ』は全車満席だった。おそらく、夏休み

とかぶっていたからだろう。ある人が言うには「寝台はあまり眠れない」と聞いたがそうでもなく、案外快適に眠れた。しかし新幹線・飛行機の利用しやすさ、格安バス・ビジネスホテルの充実が仇になり夜行列車がダイヤ改正ごとに消えていっているのだ。実際この「富士・はやぶさ」も来年の3月改正で廃止が検討されている。鉄道好きでかつ旅行好きの私としては残してほしいものだと願っている。だいたい広島あたりで眠りだし、名古屋にもうすぐ着くころに目覚めた。



B 個室内の個室の中



『はやぶさ号東京行き』方向幕



B 個室の中 (私の使った部屋)



開放型 B 寝台

上り『富士・はやぶさ』は浜松から東京まで車内販売を行っている。私は朝食としてサンドイッチを買った。車窓から富士山が見える時があると聞いて期待していたのだが、この日の天気は曇りで見えることはできなかった。列車が東京に近づくにつれて周りが騒ぎ出してきた。もう乗客皆起きてきたころだったろう。熱海を過ぎ横浜まであと少しというところで、東海道線の E231 系や横須賀線の E217 系がちらほらと見られた。普段見慣れたものも懐かしく感じるのはなぜだろう。

まもなく横浜に着く、という時に E217 系との競争が始まった。場所は戸塚～横浜の併走区間で、保土ヶ谷で抜いた E217 系が横浜に着く瞬間に一気に追い抜く瞬間は見ていて楽しかった。また横浜に到着するとき個室の窓から駅のホームを眺めていたら、女性と目が合った。今流行りの鉄子か？よほどブルートレインが珍しいのだろう。横浜を過ぎたら次は終点の東京、私は降車の準備をした。

東京到着、長かったたびが終わる。乗ってきた客車と機関車の写真を撮ってそのまま家へ帰った。

総計で 2000 キロ以上にもわたる一人旅は終わった。



約 13 時間乗った寝台列車



下関からの機関車『EF66』

あとがき

今回のたびでは、十分に楽しめたと思う。中にはここでは書けない失敗談などもあるが、それも思い出の一つだ。ここで学ぶべきこともできただろう。私はお金をなくさないだろうか、列車に乗り遅れないだろうか、気になっていたが何もなくて本当によかった。また、多くの貴重な列車に乗ることができて楽しめた。だがしかし、そのために宿題をほとんどやっておらず、今でもこれを書きながらやっているのはほとんどいないだろう。来年からは気をつけようと思う。



一人旅ツアーズ終了記念